

気象経過と生育概況

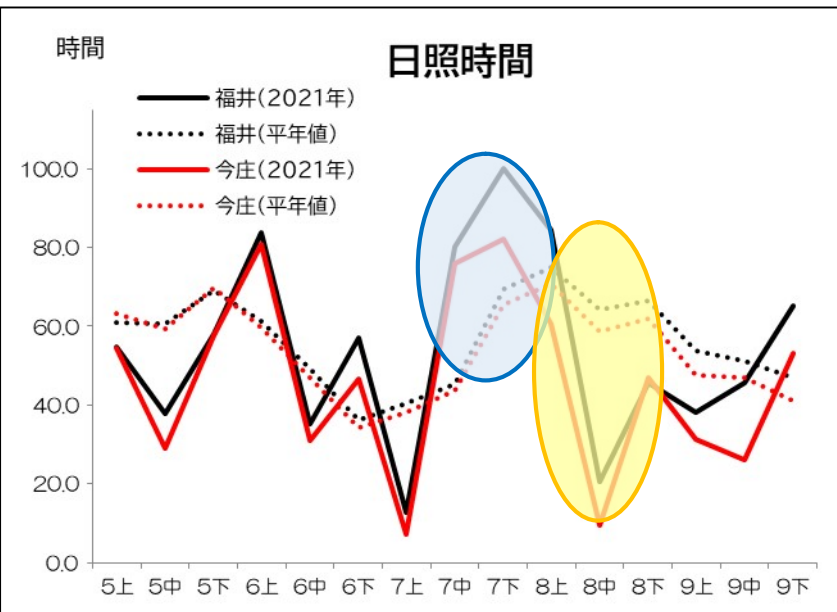
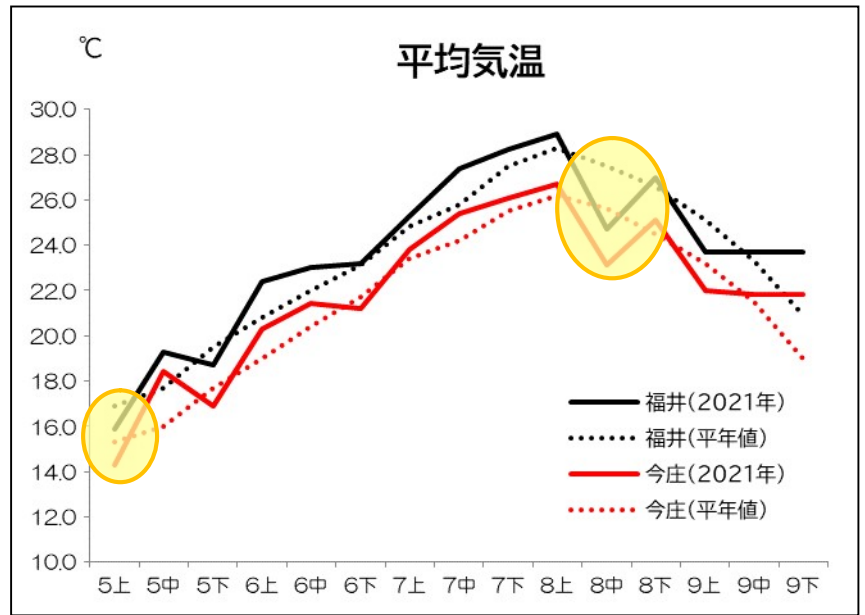
■5月

曇りや雨の日が多く、生育や分けつ確保が遅れ気味で、莖数は少なめに推移しました。

直播栽培では、播種後の低温により発芽が遅れました。

■6月

高温・多日照と好天で6月18日の梅雨入り以降も降水量は少なく推移し、莖数は回復しました。



■7月

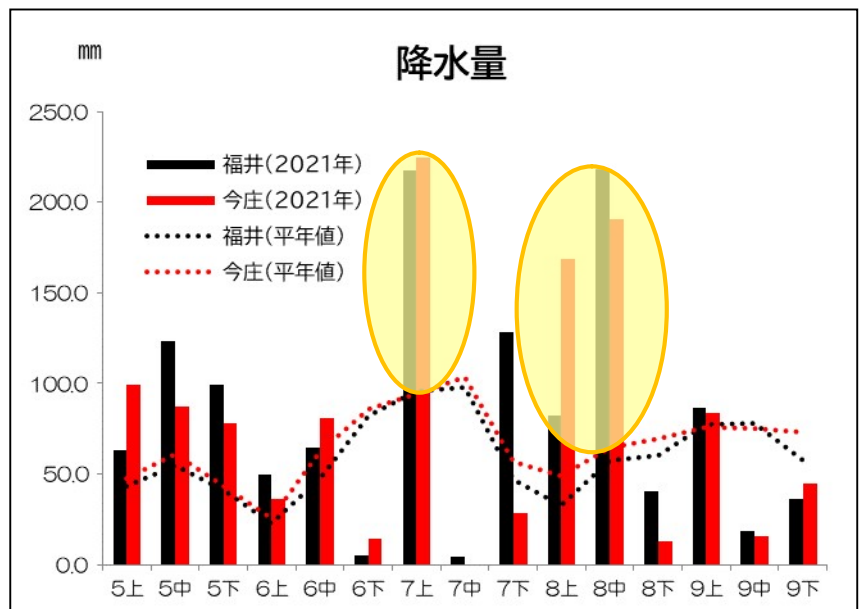
雨の日が続き、箱施薬剤や予防剤を散布していない圃場で、葉いもちの発生が見られましたが、中旬以降は、高温・多日照で推移し登熟を促進しました。



■8月

出穂直後のフェーンや長雨の影響により、あきさかりや日本晴を中心に褐変籾が発生しました。

中旬以降は、低温と日照不足による登熟不良と併せて降水量も多く、あきさかりや日本晴で穂首いもちの発生も見られました。



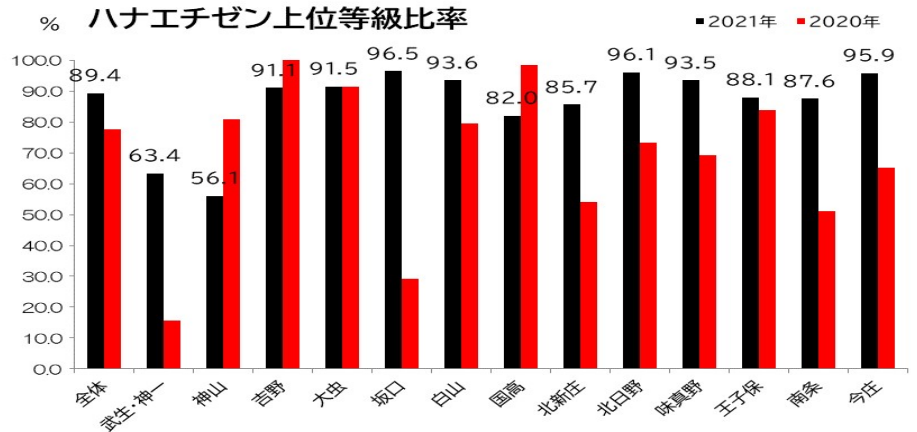
2021年産米 主要品種品質概況

倉前検査データより※10月7日現在

■ハナエチゼン

本年は、出穂期～登熟盛期が高温多日照で経過し、登熟歩合が高くなり網下米が少なく収量は高めとなりました。

また、積雪が平年並みであったことからカメムシ被害も少なく品質も良好でした。

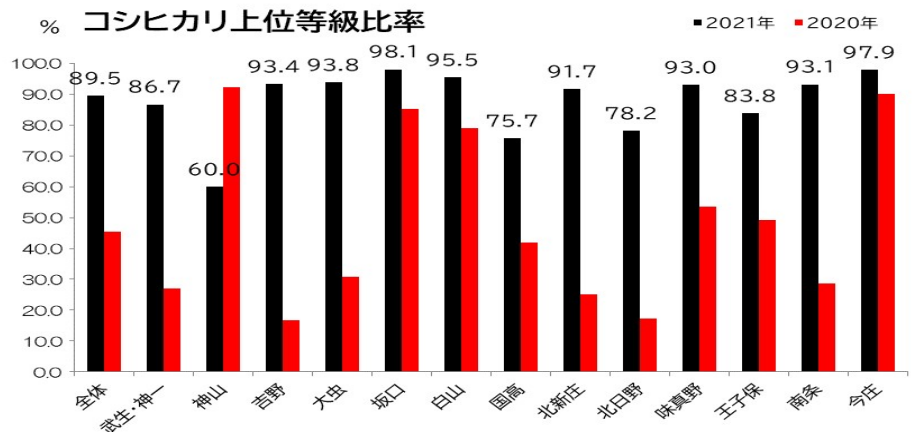


2021年産 主な格落ち理由



■コシヒカリ

昨年は高温障害により乳白米の発生が多く、特に平坦地において品質の低下が顕著でした。本年は、出穂期以降が低温で推移したことで、高温障害を回避し品質面は向上しましたが、登熟最盛期(8月中下旬)の日照時間が平年の半分程度と少なかったため、登熟不良を招き網下米が増加し収量が低下しました。



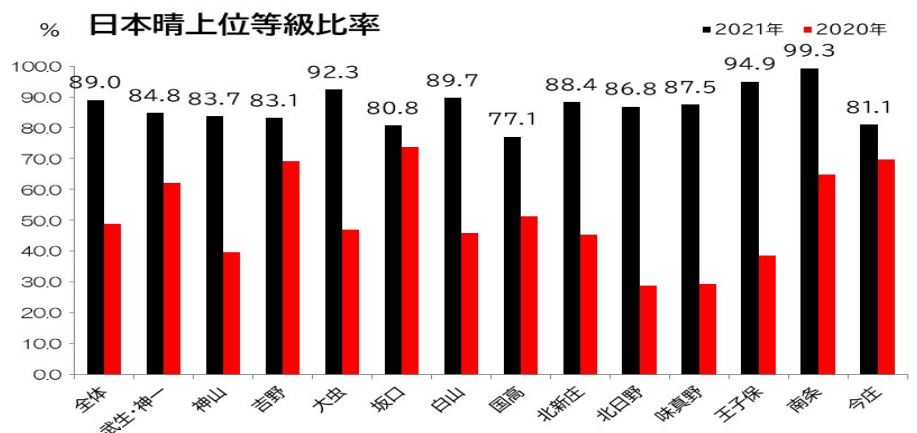
2021年産 主な格落ち理由



■日本晴

昨年は、カメムシによる斑点米の被害が多く、全域で上位等級率が低くなりました。本年は積雪が平年並みにあったことから、クモヘリカメムシ等の越冬成虫が少なく、全体的に品質は良好でした。

しかし、圃場によっては、褐変粉やいもち病の発生により品質や収量が低下しました。



2021年産 主な格落ち理由

